

県政戦略会議の概要

- 1 開催日時：平成19年5月25日（金） 13：00～14：05
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、出納長、各部局長等
- 4 欠席者：副知事、病院事業庁長、教育長
- 5 議事概要：以下のとおり
（ 議題提出部局説明・回答、 意見・質問）

議題1：「みえ経営改善プラン」の見直しについて（総務部）
資料1に基づき説明

中期財政見通しを推計A,B,Cの3種類示す必要性はなにか？

Aは現行のまま、Cは理想的な姿、現実的対応としてBを示した。

県組織については、今の枠組みを基本に弾力的に見直していくということ。

定員管理については、かなり厳しい中進めていく。

議題2：2007年版県政報告書について（総務部）
資料2に基づき説明 質疑なし

議題3：第二次戦略計画最終案について（政策部）
資料3に基づき説明

資料3-1の第一章に第一次戦略計画の総括という表現があるが、成果や結果という表現の方が望ましいのではないか。

個々の施策の成果をふまえて、第一次戦略計画全体を取りまとめるという意味を表現すると総括という言葉になる。また第一次戦略計画の3年間を一つにまとめて考えると、という意味でも総括という言葉を用いている。

資料3-4の3で、他の主体の状況を把握するのは、主担当部長ではなく事業担当部長が行うという整理がされているが、何か意味があるのか。

プログラム全体を取りまとめるのは主担当部長であるが、他の主体の状況は事業担当部単位で把握するという趣旨である。

春、夏のトップレビューで議論する内容を具体的に示してもらえるとわかりやすい。

春のトップレビューは今年度の取組内容を確認する場である。そのため事務的には春のトップレビューまでに今年度の取組内容について整理しておく必要がある。他の主体とも今年度の取組について春のトップレビューまでに整理いただきたい。夏のトップレビューは次年度の取組内容について議論を行うスタートの場である。

資料3 - 4の4「今後、整理していく事項」に記載されている、主担当部長が担う予算調製の権限は、以前からの課題である。舞台づくりプログラムは目標も定性的で評価が把握しにくい。主担当部長がどこまでコントロールができるのか。

プログラムの見直しについて、主担当部長と事業担当部長が協議をするとあるが、なかなか協議の場が持ちにくい。

主担当部長が事業担当部長とプログラムについて協議ができるようにルール化するべきである。

今後夏場にかけて議論していきたい。

以上